

平成30年度 第3回 平塚市図書館協議会

平成31年2月22日（金）14時～16時
平塚市中央図書館 3階ホール

1 開会

2 会長あいさつ

3 議 事（会議公開）

（1）今期テーマ「図書館の運営体制の検討」について

ア 移動図書館「あおぞら号」のあり方の見直し

（ア）移動図書館「あおぞら号」の東海大学への巡回体験

（イ）移動図書館「あおぞら号」のあり方の方向性

イ 民間活力の導入に向けた進捗状況

（2）事務局からの報告事項

ア 平塚市図書館設置70周年記念事業 実施状況

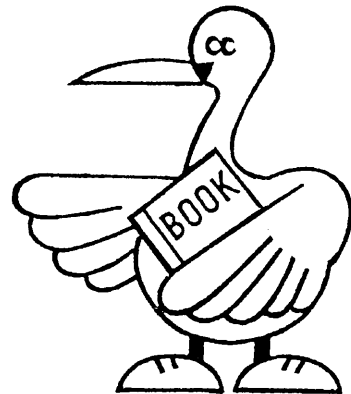
イ 平成30年度平塚市子ども読書活動推進フォーラム 実施報告

ウ 平成30年度平塚市図書館体験型図書館イベント 実施報告

（3）今期の図書館協議会の提案、検討事項のまとめ

（4）次期図書館協議会への申し送り事項等

4 閉 会



平塚市図書館協議会委員名簿

平成 29 年 8 月 1 日～平成 31 年 7 月 31 日

	氏 名	分 野	推 薦 母 体	就 任	備 考
1	みなと たかみ 湊 敬実	学校教育関係者	平塚市立中学校長会	1 期	
2	なかの ゆか 中野 友香	学校教育関係者	平塚市立小学校教育研究会 学校図書館部会	1 期	
3	こばやし としゆき 小林 利幸	社会教育関係者	神奈川県立図書館	1 期	副会長
4	あとべ さえ 跡部 左恵	家庭教育の向上 に資する活動を行 う者	平塚市子ども読書活動推進協議会	2 期	
5	たけのうち ただし 竹之内 禎	学識経験者	東海大学	1 期	会長
6	こうの あき 河野 亜希	学識経験者	市民公募	1 期	

《平塚市教育委員会》

所 属 ・ 職	氏 名
教育長	吉野 雅裕
社会教育部長	高橋 勇二
中央図書館長	小林 裕治
北図書館長	本名 亮
西図書館長	宮脇 正樹
南図書館長	佐伯 啓介
中央図書館 管理担当長	高橋 章夫
中央図書館 奉仕担当長	菊坂 伸江
中央図書館 管理担当 主査	杉山 真澄
中央図書館 奉仕担当 主査	平原 渉太

(1) 今期テーマ「図書館の運営体制の検討」について

ア 移動図書館「あおぞら号」のあり方の見直し

(ア) 移動図書館「あおぞら号」の東海大学への巡回体験



【実施日時】	平成31年1月16日(水)15:20~17:00 図書館情報学総合演習 B
【会場】	東海大学湘南キャンパス3号館前及び11号館
【参加者】	図書館情報学総合演習B受講生32名(竹之内准教授)及び 中央図書館職員6名【小林中央図書館長・高橋管理担当長・菊坂奉仕担当長・ 奉仕担当平原主査・奉仕担当中村主任(移動図書館担当)・管理担当杉山主査】
【内容】	1. 移動図書館「あおぞら号」の車内見学 2. 東海大学生及び図書館職員とのグループワークで意見交換と全体での共有

はじめに

本市「民間活力の活用に係る具体的業務の取組方針について」(平成30年3月26日策定)の中で移動図書館(図書館へ来館出来ない市民へのサービス)について、現状の利用状況や課題の把握、費用対効果等からその在り方を見直すこととなりました。

まず、移動図書館について、利用状況や課題の把握等をするため、平成30年7~8月に、県内他自治体での実施状況や移動図書館を廃止した自治体への調査を実施しました。移動図書館を廃止した自治体に対しては、移動図書館を廃止した経緯や検討経過、代替サービスの検討などを調査しました。また、移動図書館を現在も運行している県内の自治体(横浜市、川崎市、茅ヶ崎市、厚木市、秦野市、座間市)に対しては、移動図書館の運行状況、経費、必要性の検討状況を調査しました。同年10月には、本市の移動図書館の利用状況を調査するため、移動図書館利用者へのアンケート調査を行いました。また、移動図書館を利用していない人の意向については、図書館ウェブサイトでのアンケートも実施しました。平成30年度第2回図書館協議会では、そのアンケート結果等を取りまとめ、説明させていただき、さらに委員から御意見をいただきました。

【平成30年度第2回図書館協議会での意見(抜粋)】

- ・学区の中に図書館がない学校にも移動図書館車が行けるようになると良いと考える。
- ・保育園や幼稚園へも、もっと訪問してもらえればと考える。
- ・要望の有無にかかわらず、平塚市全域をカバーしないと意味がない。
- ・移動図書館車が行くためには、そんなに広い場所がないと難しいのか。(小型化等)
- ・スーパーやコンビニと連携し、駐車場を借りてステーションにするなど対策を練ってみるなど必要ではないか。また、2週間に1回巡回という縛りもなくとも良いのではないか。
- ・図書館は市内4館しかない。小学生や高齢者の方にとっては近隣の方、学区内の子どもしか図書館を利用できないことになる。学区外で近隣ではない地域へは移動図書館が訪問する必要はやはりあるのではないか。
- ・平塚市は4館体制であるが、市の規模(人口約26万人)からすると図書館の少ない自治体で

はない。プラスして移動図書館を運行しているのは、よりきめ細かいサービスの提供がされている恵まれた地域といえる。

- ・民間の協力を得るなど代替サービスの提供をどのように考えているか教えていただきたい。
- ・大学図書館と市立図書館では、蔵書の種類がだいぶ違うので、東海大学へも移動図書館車が巡回してくれればと考える。数ある要望の一つとして加えていただきたい。

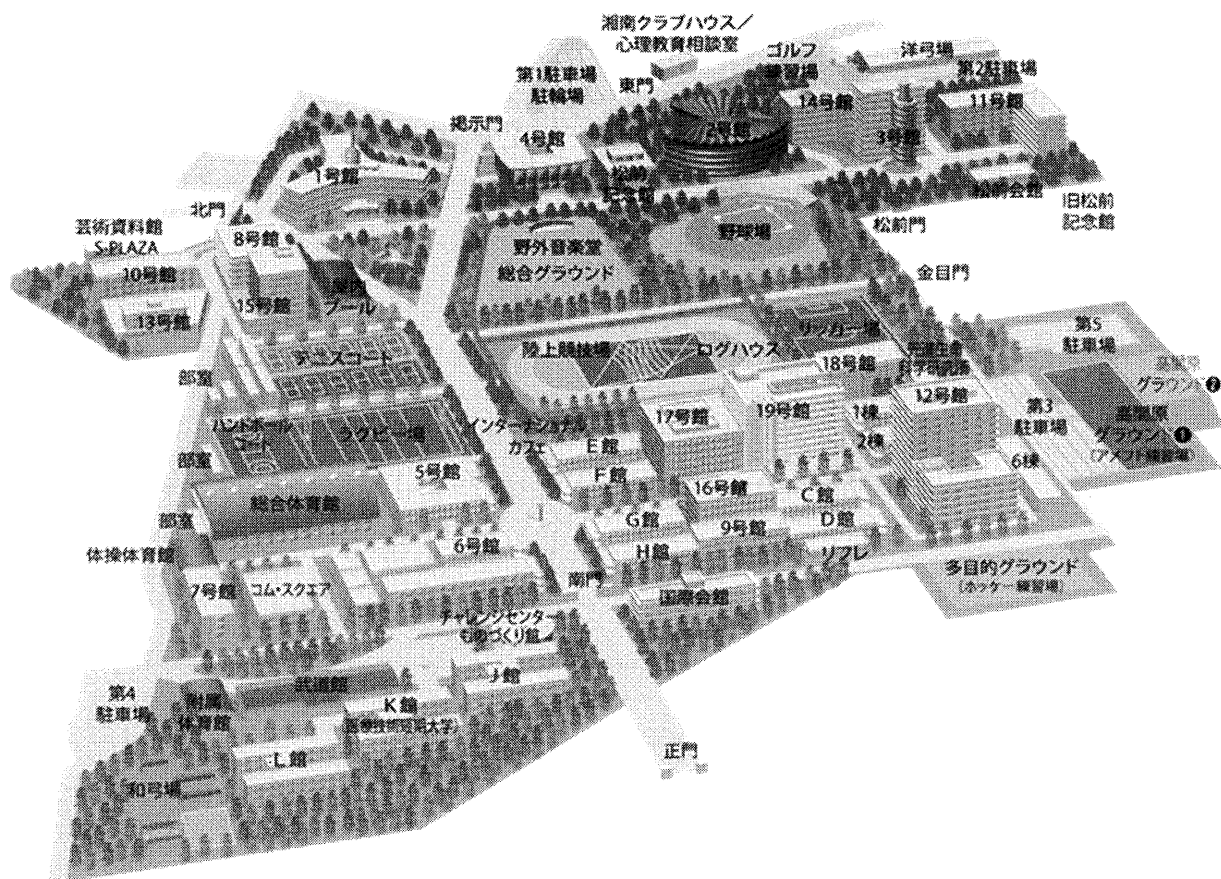
移動図書館業務の在り方を検討し、今後の事業の方針を決定して行く中で、地元東海大学で司書課程を学ぶ学生さんに移動図書館を体験、意見交換していただき、今後の移動図書館の展開の参考にできればと考えました。そして、平塚市図書館協議会竹之内会長のお力添えにより、平成31年1月16日（水）に移動図書館を東海大学へ巡回体験する機会をいただきました。学生の視点で移動図書館の将来を考えていただき、意見やアイデアをいただくことができました。

当日の様子

1. 移動図書館「あおぞら号」の見学

あおぞら号が東海大学の敷地内に入構し、3号館の前のスペースをお借りし、駐車しました。32名の学生たちが写真を撮ったり、本を手にとったり自由に車内を見学しました。「どのように選書しているのか」、「一番上の棚に本を配架していない理由はなぜか」など近くの職員に積極的に質問する学生の姿が多く見られました。その後全体で、実際の日々の業務を担当職員から説明しました。通りすがりの学生も、写真を撮ったり、中を覗いたりとても興味深そうにあおぞら号を見ていたのが印象的でした。





東海大学ホームページから

2. 東海大学生及び図書館職員とのグループワークで意見交換と全体での共有

あおぞら号見学後は教室に戻り、先週の授業で事前に検討いただいた「移動図書館活用のアイデア」について、竹之内先生からご紹介がありました。その後、東海大学生4～5名のグループに図書館職員が加わり、グループで意見交換をしました。最後に、各グループから出された意見を全体で共有しました。

1. 移動図書館は、決まった場所（ステーション）を定期的に巡回しているが、定期的に行く場所以外に行くとよいと思われる場所は？

高齢者施設、住宅街（騒音の問題もあり賛否）、ららぽーと、総合公園、銭湯・温泉、あさつゆ広場、スタジアムの巡回（湘南ベルマーレのようなスポーツチームと連携し新規利用者獲得）、他のイベント実施会場

2. 移動図書館のことを市民の方に知ってもらう方法は？（移動図書館の認知度をあげるためにすべきこと。利用者を増やす取り組みなど）

ツイッターなどのSNSで情報発信、痛車（アニメのペイント）、インスタ映えするペイント、協賛企業との連携、企業広告、ネーミングライツ、ウェブであおぞら号が現在いる場所がわかる、移動中にBGMを流し移動図書館の存在アピールする、営業活動、コンビニで返却、大学図書館で返却、電車で広告（江ノ電はつり革や座席に広告のデザインが入っている）、特集の本をのせる、テレビ神奈川に取り上げてもらう

3. 移動図書館をもし利用したことをある方がいれば、移動図書館が本に親しむきっかけとなった等思い出を伺いたい。

移動図書館利用者 2名

- ・小学生のとき、移動図書館が来るのが楽しみだった
- ・借りた本をクラスの友達と読んだりした楽しい思い出が今でも残っている

4. あおぞら号にどんな本があれば良いか。

- ・学校にない本（大学で言うと、娯楽や雑誌文庫、小説、全集等）複数回答
- ・平塚市の郷土資料（偶然の出会いから、色々なことを調べてみようという流れに繋げる）
- ・趣味の本、専門書や辞書（絵画や編み物など趣味の本は高額だったりするため自分で購入するのはハードルが高い）

5. 買い替えるとしたらどんなデザインの移動図書館車が良いか。

- ・インスタ映えするペイント
- ・車体を白にしてプロジェクターでその都度映像を変える
- ・各小学校コンテスト形式でイラストを募集し、優勝した学校のイラストをラッピング塗装する
- ・協賛企業を募集し、広告する
- ・車のデザインの公募
- ・高校の美術部に依頼する
- ・派手な色にする

6. 移動図書館で実現したら面白い新しいアイデアは？

- ・紙芝居や絵本の読み聞かせ（ボランティアを同伴し巡回したり、大人向けの読み聞かせ、夏は怪談、公民館などで文字を追うのが大変なお年寄りに向けた読み聞かせ等 複数回答）
- ・病院へ巡回し、利用したくても身体の事情でいけない人たちのためにサービスを提供(複数回答)
- ・POPを作り、どのような本が棚に配架されているか分かるようにする (複数回答)
- ・どこに何時間滞在するだけでもSNSで周知や連絡できるサービス (複数回答)
- ・車内のデコレーション（地域の子どもの折り紙などの作品やイラストとPOP）
- ・図書館職員おすすめの本の紹介
- ・本とともに市の宣伝を地域に届ける
- ・市内で開催している市のイベント会場に同行し、相乗効果を図る
- ・本以外の食料品を届けるサービスとともに提供

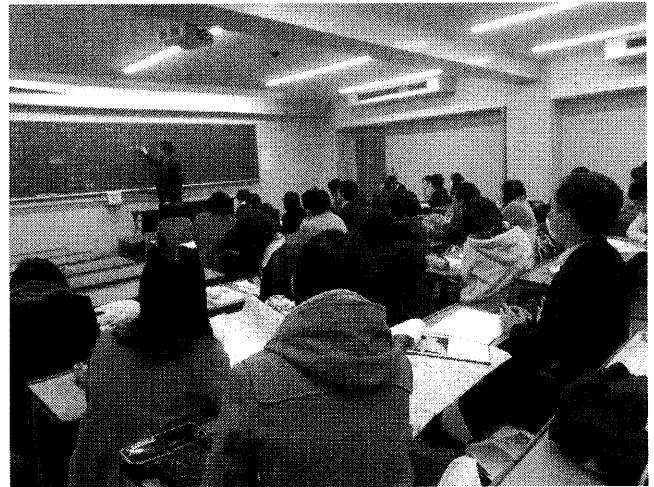
7. 平塚市民の立場、納税者の立場にたったとき、移動図書館は必要か、どのような活用方法があるか。

- ・実際に利用者は少ないかもしれないが、子どもの時に移動図書館を利用した経験があれば、大人になってからの図書館の利用にも繋がると思うので、必要だと思う
- ・移動手段がある世代（中高、青年層）のことは対象として考えず、移動手段のない子どもたちや高齢者を対象に運営していけば良い（中高、青年層向けには駅前のサービスの充実を図る）

- ・移動図書館がある市町村は少ないので、移動図書館を運営する意味や必要性を他市に PR すべき
と考える
- ・平塚市の誇れるサービスとしてPRし、全国展開へつなげてほしい
- ・もう一台増やし、より多くの地域をカバーする
- ・移動図書館の意義は、図書館が近くにいる人のためのサービス以外には偶然利用するきっかけづくりをすることだと思うので、今後も市としてサービスを継続することは活字や生の本に親しむための欠かせないことだと思う
- ・家が遠いから図書館へ行けないというのは、活字に触れる機会が失われることになるので、移動図書館は必要だと思う

8. あおぞら号を見学した感想

- ・車体の装飾がなく寂しく感じた
- ・本棚の空いているスペースは有効活用してほしい【図書の面出し（表紙を見せて飾る）に使ったかどうかという意見がでた】
- ・利用者のための椅子があると良い
- ・扉が開くと、車体の装飾が見えないので、扉が開いても装飾が見えると良い



(イ) 移動図書館「あおぞら号」のあり方の方向性

●移動図書館を含めた今後の図書館運営について

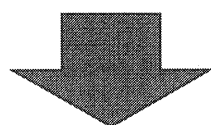
背景（現状）

- 人口減少や社会情勢の変化
- 生産年齢人口の減少による税収の低下や高齢化率の上昇
- 行政サービスの多様化・高度化等への対応

⇒本市においても、人口減少社会への順応に向けた取組の早期着手が喫緊の課題

図書館の課題

- 貸出点数や利用者数、図書資料購入費の減少
- 施設の老朽化→公共施設再編に伴う個別計画を今後策定
- 移動図書館車（現在の車両は平成18年に更新し、13年を迎える。）
→老朽化の進行



平塚市図書館として、どのようなサービスを提供していくのか、図書館はどうあるべきかという根本となる土台を定めた「平塚市図書館サービス方針」を策定した。

今年度の検討課題

- 「民間活力活用に係る具体的業務の取組方針について」の中で、平成30年度に移動図書館業務のあり方を検討することとなった。

⇒他自治体の状況を調査や利用者アンケートなどを実施

<利用者アンケートからの傾向>

- ・9割の方が自宅等から「10分以内」に「徒歩」や「自転車」で来られる方が利用している。
- ・予約した本の受け取れるサービスを希望している、あるいは様々な本から自ら選んでから借りたい人が多い。

<他自治体の調査から>

○移動図書館を廃止した理由

- ・分館の充実と、それを背景とした利用者の減少
- ・老朽化した車両更新のめどが立たない
- ・費用対効果を踏まえ、偏った一部の利用者サービスであったことから

<他自治体の調査から>

○移動図書館を必要としている理由

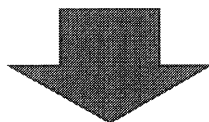
- ・地域住民の要望が強く、ニーズも高い。また、移動図書館が市民に広く親しまれており定着している。
- ・現在、図書館施設の新たな整備が無く、図書館への来館が困難な遠隔地域の存在は解消されていないため、引き続き図書館施設を補完するものとして事業実施が必要である。
- ・中央図書館や公民館図書室に行くことが難しい乳幼児連れや高齢者の方々等に利便を図り、広範囲にわたる市域全域にわたる住民へのサービスが必要。
- ・全域サービスの確立と子ども読書活動推進のためにも、移動図書館は必要。

現在の運営状況

○平塚市内に図書館を4館(中央・北・西・南)配置しているが、開発や区画整理等により、地域の人口比率が変わってきている。そのため、図書館から遠い地域に住んでいる住民をカバーするため、移動図書館を運行している。

○移動図書館の必要性

- ・図書館へ行くことが困難な市民の存在(乳幼児のいる家庭や高齢者)
- ・高齢化社会
- ・図書館の空白地域に住んでいる市民に対し、図書館施設を補うもの
- ・保育園や高齢者施設等への出前図書館としての役割
- ・児童(小学生)が様々な本に出会える貴重な機会



- 今年度策定したサービス方針を踏まえ、移動図書館を含めた平塚市の図書館のあり方をどのようにしていくのか？

今後、検討する主な取組（現在、考えられるもの）

●短期的取組

- ・移動図書館は、ステーションの巡回と団体貸出、出前図書館でのサービスにとどまっている。（複数のサービスポイントで限られた資料と職員でサービスが提供できている、という一面もある）
→現在の移動図書館の運用方法が市民ニーズにあっているのか、移動図書館のより良い活用方法を検討

●短（中）期的取組

- ・ステーションの見直しや統廃合

●中長期的取組

- ・公共施設の個別施設計画策定を踏まえた、図書館のあり方の検討

●長期的取組

- ・公共施設等への図書室設置について、利便性や経費等総合的に検討
- ・今後の市の施策等にあわせた図書館サービスの検討

※上記の取組は、人口の増減など社会的要因の変化に合わせ、見直しを図っていく。

(2) 事務局からの報告事項

ア 平塚市図書館設置70周年記念事業 実施状況

●読書通帳

配付状況（平成31年1月末現在）

読書通帳		2,776部
表彰状	20冊目	136枚
	40冊目	53枚
	数字なし（60冊目以上）	13枚

●本の福袋

(1) 実施期間 平成31年1月5日（土）～1月8日（火）

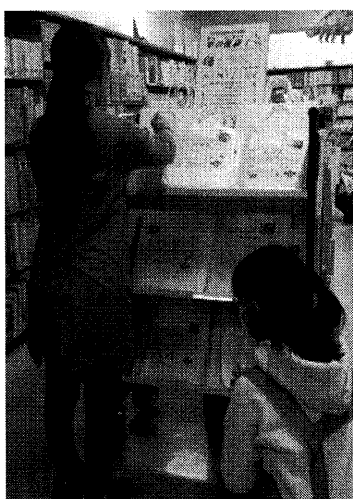
※14日（月・祝）までの予定だったが、中央・北・西図書館は6日（日）ですべてが貸し出された。南図書館も8日（火）昼過ぎに終了となった。

(2) 貸出数

（単位：袋）

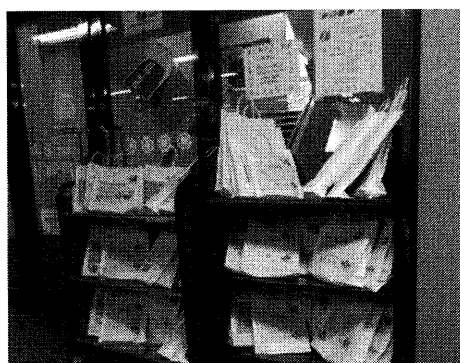
	大人向け	こども向け	合計
中央図書館	33	33	66
北図書館	10	12	22
西図書館	20	20	40
南図書館	10	10	20
合計	73	75	148

各館の展示風景



中央館 こども向け

中高生ボランティアの参加者に飾りつけをしていただきました。



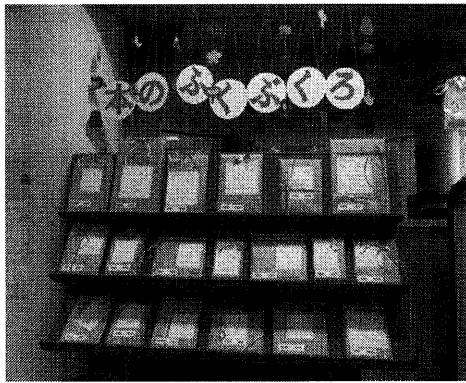
中央館 大人向け



北館 こども向け



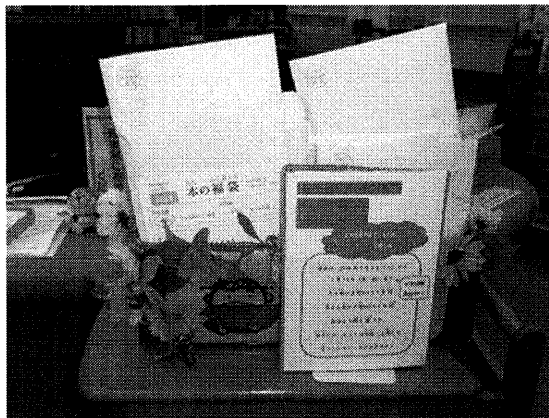
北館 大人向け



西館 こども向け



西館 大人向け



南館 (こども向け・大人向け)

イ 「平成30年度 平塚市子ども読書活動推進フォーラム」実施報告

平塚市子ども読書活動推進フォーラム（以下、「フォーラム」という）は、平塚市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき、子どもの読書活動推進に関する講演や絵本作家自身による読み聞かせなどを通じて、

- ・子どものうちから絵本に出会うこと
- ・家庭での読書の大切さを理解していただくこと
- ・全中学校区に設立した子ども読書活動推進協議会の活動等をPRし、今後の子ども読書活動への参加意識を高めること を目的として開催している。

当フォーラムは平成19年度から開催しており、今回が12回目となった。

今年度のフォーラムの開催結果は次のとおり。

1 取組方法 実行委員会方式

平成30年4月に、教育委員会の関係各課職員10人と図書ボランティアの実行委員長による実行委員会を立ち上げて、講師の選定、進行等協働して行った。（平成29年度：当日ボランティアを含め43人体制）

なお、平成30年度のフォーラム当日の運営人数は、1回目12人、2～4回目は各5人（1回目と2回目に実行委員ではない図書館職員1人を含む）。

2 昨年度からの変更について

昨年度まで中央公民館で開催していたが、今年度は中央図書館で開催した。中央公民館の大ホールで行う講演会は、講師と参加者に距離があり子どもたちが飽きてしまう、絵本作家のファンが集まるが、読書活動に積極的ではない層の集客ができていない、講演会終了後のサイン会にかかる運営負担が大きい、などの課題があらわれていた。そこで、今回は会場の規模を小さくすることで、運営負担を軽減しつつ、対象者を絞り込みより充実した内容のフォーラムを目指した。

変更点	平成29年度	平成30年度
会場	中央公民館大ホール	中央図書館ホール
募集定員	700人	320人（合計）
開催回数	1回	4回（定員80人2回、30人2回）
参加者数	440人	143人
対象	・子どもと保護者 （主に幼児から小学校低学年）	・各回で異なる （主に幼児から小学校低学年とその保護者、中学生以下の子どもと保護者、中高生大人（16歳以上の方））
講師	・絵本作家	・絵本作家 ・平塚市在住の人材

3 開催実績

(1) 親子で楽しむお話し会「恐竜博士になろう！」

恐竜絵本作家黒川みつひろさん講演会

- ア 日 時 平成30年7月21日(土) 13:30~15:00
 イ 会 場 中央図書館3階ホール(定員80人)
 ウ 来場者数 81人(うち3歳未満4人は座席数に含めず)(31組)
 申込人数353人(129件)
 (昨年度:申込人数681人 来場者数467人)

エ 内 容

恐竜絵本作家黒川みつひろ氏による講演会。著作の絵本の読み聞かせや、恐竜の解説など。実際に化石に触れたり、クイズに答えたり、参加型のイベントだった。終了後希望者に絵本の販売とサイン会を行った。

オ アンケート結果 ○回答数…24件(参加31組) 回収率…約77%

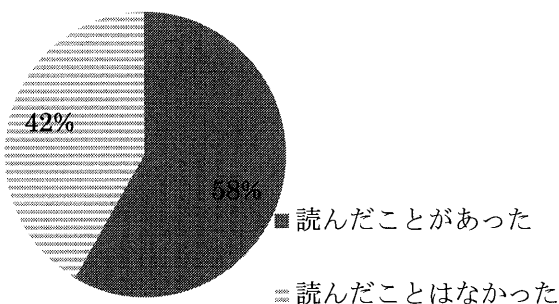
① 満足度

「よかった」「まあまあよかった」の合計が96%であった。今回会場などを変更したことによる満足度の低下は起こらなかった。

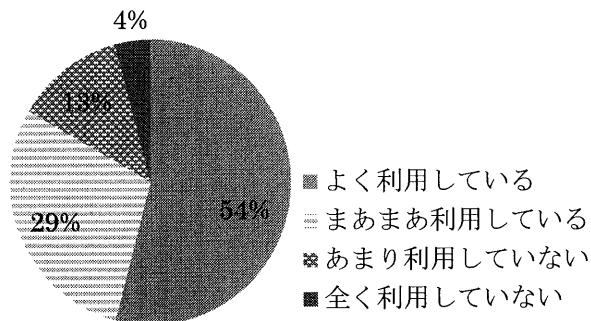
② 参加動機・図書館の利用について

講師を知らなかった方(42%)や図書館をあまり利用しない、全く利用しない(計17%)方にも参加していただくことができた。

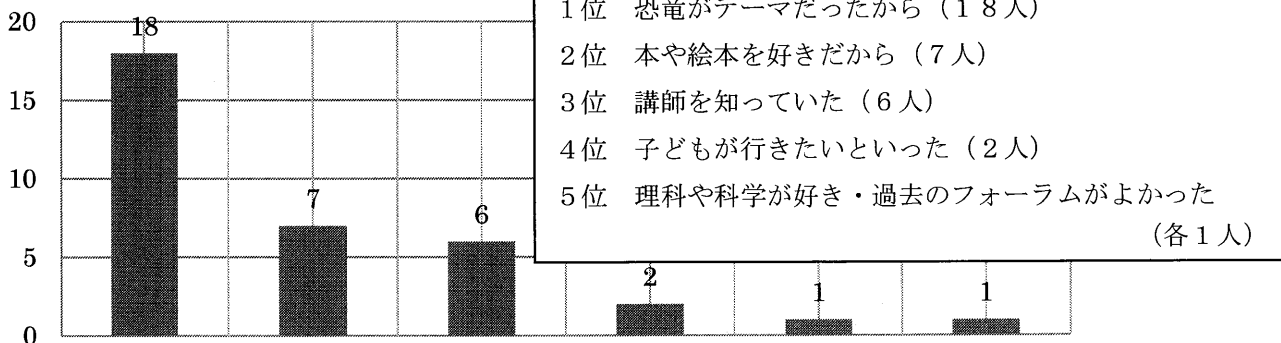
Q これまでに黒川みつひろさんの本を読んだことはありましたか?



Q 図書館を利用していますか?



Q 今回のフォーラムに参加した理由について(複数回答可)



③ 講演の効果

「恐竜についてもっと知りたくなった」と96%の方が、本や絵本（恐竜以外のものでも）を「読みたくなった」と100%の方が回答し、今回のテーマである「恐竜」とともに、「読書推進」についても興味を持ってもらうことができた。

④ 感想（抜粋）

○大人も子どもも勉強になりました。恐竜がもっと好きになりました。

○恐竜が大好きなので、恐竜のイベント嬉しいです。

（参考）・サイン会参加17人 ・ファンレター18枚 ・販売27冊

(2) 絵本でおもしろいこと、してみよう！

ア 日 時 平成30年9月29日（土） 10:00～12:00

イ 会 場 中央図書館3階会議室（定員30人先着）

ウ 来場者数 26人（16組）申込人数27人（16件）

うち小学生（4～6年生）18人、保護者8人

エ 内 容

絵本専門士美能美貴子氏による絵本でのアニメーション。講師が読んだ絵本について、さまざまな質問やゲームを行い、子どもたちに絵本を注意深く聞いたり読んだりすることを促した。また、おすすめの絵本を紹介した。

オ アンケート結果 ○回答数…22件 回収率…約85%

① 満足度・講演の効果

回答者は全員「よかった」、ほぼ全員が「本や絵本を読みたくなった」と回答。

② 参加動機・図書館の利用について

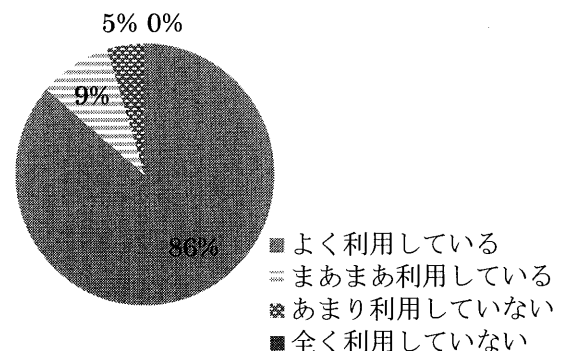
参加者は、図書館の利用者が多く、もともと絵本や読書が好きな方が集まった。

③ 感想（抜粋）

○絵本で「遊ぶ」なんてことは考えたこともありませんでしたが、こんな風楽しめるものだとは初めて知りました。またこのようなイベントがあったら参加したい。

○もっといろいろな本をよみたくくなりました！

Q 図書館を利用していますか？



(3) 絵本の世界を思い出そう

ア 日 時 平成30年9月29日（土） 14:00～16:00

イ 会 場 中央図書館3階会議室（定員30人先着）

ウ 来場者数 5人（中高生）

エ 内 容

絵本専門士美能美貴子氏による絵本を使ったワークショップ。講師が絵本を読み、それを足掛かりとして自己分析を行い、自己肯定感を得るようなワークを行った。また、おすすめの絵本を紹介した。

オ アンケート結果 ○回答数…5件 回収率…100%

① 満足度・講演の効果

参加者全員が「よかった」、本を「読みたくなった」と回答。本を通じて自分を振り返る経験をしてもらうことができた。

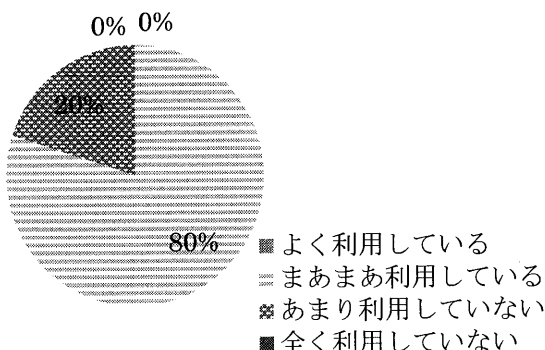
② 参加動機・図書館の利用について

講師や友人を介してなど、人づてで講座を知って参加している。図書館を「よく利用している」と回答した人がいなかった。

③ 感想（抜粋）

- 元気をもらったし、私もいろんなことをやってみようと思った。
- 悩みをかかえてしまった時、自分以外の視点をかえてみるといいなと思った。

Q 図書館を利用していますか？



(4) おひざで絵本～お孫さんへの愛情、絵本で伝えてあげましょう～

- ア 日 時 平成30年11月10日(土) 13:30～15:30
- イ 会 場 中央図書館3階ホール(定員80人)
- ウ 来場者数 30人(託児3人は含めず) 申込人数31人(27件)
- エ 内 容

絵本講師の内田早苗氏による講演会。絵本の選び方やお子さんとの絵本を通じた接し方を、講師の実体験を交えた講演で学ぶことができた。

オ アンケート結果 ○回答数…30件 回収率…100%

① 満足度・講演の効果

87%が「よかった」、80%が本を「読みたくなった」と回答。(ほか無回答)

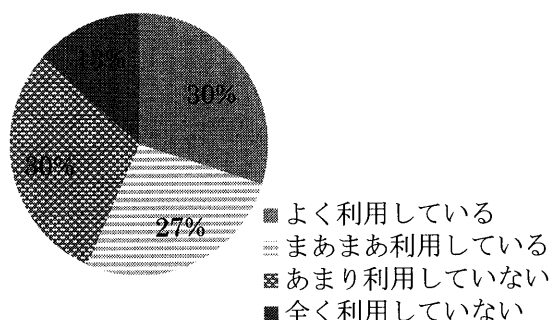
② 参加動機・図書館の利用について

ボランティア活動ではなく、家庭での絵本の読み方や選び方を知りたいという需要をつかむことができた。「あまり利用していない」(30%)、「全く利用していない」(13%)と回答する方の割合が、今年度のフォーラムで最も多かった。

③ 感想（抜粋）

- 家に帰ったらすぐに子供に絵本を読んであげたいです。
- 孫が1才を過ぎて絵本と改めてむきあってどうやって読んであげようかと思っていました。大変参考になりました。
- 大人むけの絵本の講座本当にヒットでした。

Q 図書館を利用していますか？



4 総括

かねてから課題であった参加型の講演会の実施と、働きかけが弱い層(小学校高学年から中高生、大人)を対象とした企画が大きな成果であった。絵本のアニメーション等、子ども読書活動を推進する手法を先生や大人に知ってもらうことも有意義である。

実行委員会については委員が集まらなくなっており、運営方式を見直す時期にきているが、企画や当日の準備・運営など負担の無い範囲で協働を続けたい。

以上

ウ 平成30年度平塚市図書館体験型図書館イベント 「RUN×LIBRARY～まずはゆっくり走ってみませんか～」実施報告

1 イベントの実施概要

- (1) 日 時 平成30年10月11日(木) 9:30～12:00
- (2) 会 場 中央図書館 3階ホール
- (3) 講 師 高田 由基 氏 (帝京科学大学特任助教・陸上競技部女子駅伝チーム監督、IAU100km 世界選手権日本代表(2016年他5回))
- (4) 申し込み 電話による先着順、定員20名
- (5) 参加者数 14名(応募は15名、1名欠席)
- (6) 当日のプログラム
 - 9:30 高田氏による講義「ランニング、はじめの1歩と続ける1歩」
 - 10:05 図書館職員によるランニング関連資料の紹介
 - 10:25 図書館から平塚市総合公園までウォーキング
 - 10:35 体操・ストレッチ
 - 10:50 総合公園内にてランニングおよび効果的なエクササイズ
 - 11:30 総合公園から図書館までランニングまたはウォーキング
 - 11:45 体操
 - 11:55 講評・質疑
 - 12:00 解散
- (7) 資料展示 図書館職員が紹介したランニング関連資料を会場で展示した
- (8) アンケート結果

講師による講義、図書館員からの資料紹介及びランニング・ウォーキング・エクササイズの全てで、「よかった」「まあまあよかった」の回答を得られた。講義はわかりやすく知識を得られ、資料紹介ではリストの配布で読書欲求が高まったようであった。実技は、エクササイズやストレッチを随所に挟んだことが参加者の満足につながったようであった。事前に確認した参加者のうちランニング実施者は6名だったが、参加者全体でランニングに関する情報を本から得ているのは1名、雑誌が4名であった。

今後のランニングイベントの開催について希望する回答が9名(回答者14名中)から寄せられた。

(9) 課題及び今後について

参加者の満足度が高い点、イベントの継続開催の希望が多い点、そしてランニングに関する情報源として本(1名)や雑誌(4名)を選択した人が少なかったことから、図書館で今後もランニングイベントを開催していくことが望ましい。そのためにも、事業の予算の確保し普段図書館を利用しない人にも広く周知を行うことで、図書館の利用者を拡大し、市民が知識を深めるとともに、スポーツの実施や健康の維持という身近な課題を解決に結び付けていきたい。

2 イベント実施の詳細

(1) 高田由基氏による講義「ランニング、はじめの1歩と続ける一歩」

帝京科学大学特任助教の高田由基氏による講義を実施した。

内容は①消費エネルギー②練習するとなぜ走れるようになるのか③モチベーションの維持の3項目について、各項目を掘り下げながらの説明があった。①、②については科学的な考えをわかりやすく、③については、モチベーションアップの方法を初級・中級・上級に分けたうえで身近な例を挙げながら説明していただいた。

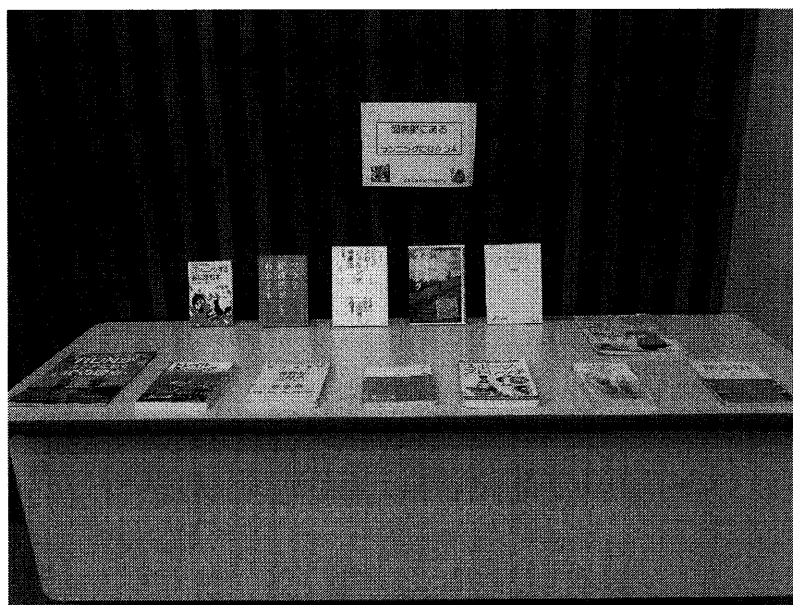
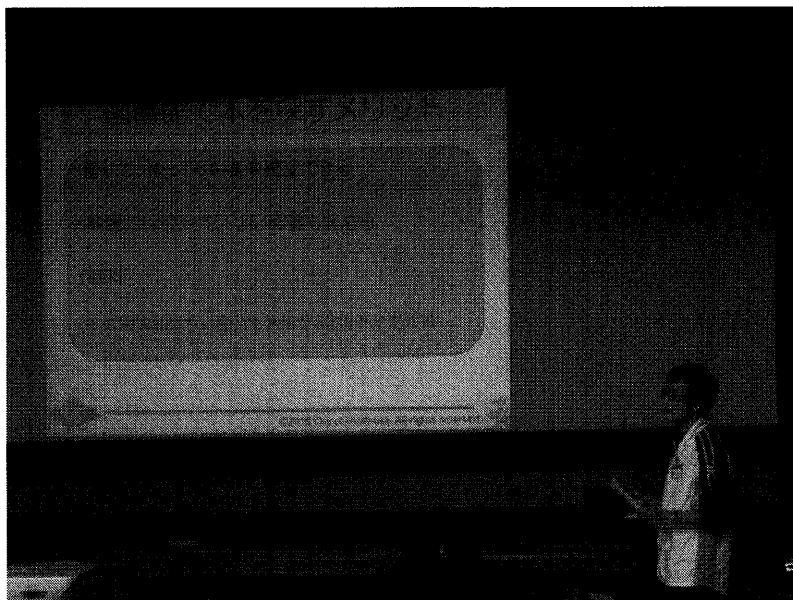


(2) 図書館職員からの資料紹介

中央図書館の平原主査がランニング関連資料の紹介を行った。導入部分では、図書館で本を探すメリットを挙げ、書店との違い、自館にない資料は県外からも含めて取り寄せを実施していることを説明した。

次に図書の紹介を5つの視点、①雑誌、②アスリートや指導者の方が書いた図書、③科学者や研究者の方が書いた図書、④著者自身の体験を書いてある図書、⑤その他ランニングに役立つ図書から計6点の資料を紹介した。紹介にあたり、資料の内容が全ての人にあてはまるものではないため、中身を確認したうえで自分に合うものを取り入れることを強調した。なお、紹介した資料及び時間の都合で紹介できなかった資料をリストにし、参加者に配付した。資料紹介の最後では図書館で探すうえで請求記号(782)について簡単に説明した。

平原主査の説明の後、高田氏からも資料紹介を実施した。



(3) ランニング・ウォーキング・エクササイズ

屋外へと移動し人数を確認後、ウォーキングで総合公園まで移動した。歩道を通行するため、2列になるように促した。特にフォームなどについて言及しなかったため、散歩のようなスピードだった。

総合公園到着後、芝生を利用して、体操ストレッチを行った。二人組で行うストレッチもあり、参加者同士打ち解けた様子となった。その後「平塚のはらっぱ」を1周(500m)走った。時折木の根が張っている箇所があるため、走りながら注意するよう案内した。参加者が飽きないよう、また休憩を兼ねて1周走り終わるごとに、上半身、下半身のエクササイズを挟んだ。

合計で3周走った後、給水の時間をとり、その後ウォーキングで中央図書館まで戻った。中央図書館に到着後、建物の前で整理体操を行い、ホールへ戻った。



(4) 講評・質疑応答

講師の高田氏から講評の後、質疑応答を実施した。高田氏の体脂肪は何パーセントか？という質問や継続的なランニングイベントの開催の要望がみられた。



3 アンケート集計結果

参加者にアンケートを配付した。その集計結果について示す。

(1) アンケートの回収率

出席者	回収数	回答率
14	14	100%

(2) 参加者の内訳

(年代別内訳)

	人数	率
30代	2	14%
40代	2	14%
50代	4	29%
60代	2	14%
70代	3	21%
無回答	1	7%
合計	14	100%

(男女別内訳)

	人数	率
男性	4	29%
女性	9	64%
無回答	1	7%
合計	14	100%

(3) 質問1 高田由基先生の講義「ランニング、はじめの1歩と続ける1歩」はいかがでした？

	回答	率
よかった	13	93%
まあまあよかった	1	7%
あまりよくなかった	0	0%
よくなかった	0	0%
合計	14	100%

(4) 質問1の回答を選択した理由

- ・わかりやすい講義で楽しかったです。先生も図書館員さんも本当にありがとうございました。
- ・無知なので、知識が増えると走るのが楽しくなりそうです。
- ・久しぶりに走ってスッキリしました
- ・初歩者向けに良く理解出来ました。
- ・お話がお上手で楽しくわかりやすかったです。特にモチベーションUPのいろいろなやり方を教えてもらって参考になりました。
- ・ランニングの基本をわかりやすく、実技を交えて解説いただき、とても役立った。
- ・やさしかった。
- ・いつか走ってみたかった。
- ・話しかけて下さり、有難うございます。全てわかり易く理解できました。
- ・楽しみながら専門的な知識を学べました。
- ・一人で走っているのみでしたので大変さんこうになりました。

(5) 質問2 図書館員によるランニング関連資料の紹介はいかがでしたか？

	回答	率
よかった	13	93%
まあまあよかった	1	7%
あまりよくなかった	0	0%
よくなかった	0	0%
合計	14	100%

(6) 質問2の回答を選択した理由

- すぐに読んでみたいと思いました。
- (質問) 1と同じです(知識が増えると走るのが楽しくなりそうです)。ランニングについて村上春樹さんの本があるとわかり、良い収穫となりました。
- たかぎなおこさんの続編期待しています。
- リストをいただけただので今後借りて勉強します。
- ランニングに役立つ資料リストが参考になりました。
- 走るモチベーションを向上するための資料として資料として、是非とも読んでみたいと思った。
- しんせつだった。
- 説明が興味深かった。
- 図書館の利用の仕方を再認識しました。
- これからランニング資料の本を読んでみます

(7) 質問3 ランニング・ウォーキング・エクササイズはいかがでしたか？

	回答	率
よかった	12	86%
まあまあよかった	2	14%
あまりよくなかった	0	0%
よくなかった	0	0%
合計	14	100%

(8) 質問3の回答を選択した理由

- 期待以上に楽しくわかりやすかったです！ストレッチが特によかったです。
- 数年ぶりにキチンと運動したのに、500m3本を軽く走れて嬉しかったです。
- 周りの方とお話しながらウォーキング&ランニングで楽しかったです。
- ランニングが少々物足りなかった。ストレッチが色々ためになった。
- 取り入れてみたいエクササイズを教えてもらえました。
- ストレッチの方法など今まで知らなかったことがわかった。
- ほどよかったです。
- 初心者として楽しく、又安心して参加できました。

- ・特にエクササイズ、続けたいなあ、と思いました。
- ・走ることを楽しく感じました。
- ・普段やっていないエクササイズを今後取り入れて行きます。

(9) 質問4 ここ1年間(2017年11月から2018年10月)で、どのくらい平塚市図書館を利用しましたか?

	回答	率
週に1回以上	0	0%
月に数回程度	6	43%
月に1回程度	1	7%
年に数回程度	5	36%
利用していない	2	14%
合計	14	100%

(10) 質問5 ランニングに関する情報を何から得ていますか?(複数回答可・N=14)

	回答	率
テレビ	7	50%
インターネットの企業等のウェブサイト	5	36%
雑誌	4	29%
新聞	4	29%
知り合い等との会話	4	29%
本	1	7%
SNS	1	7%
ランニングクラブ等の指導者	0	0%
その他	0	0%

(11) 質問6 本日の感想や講師へのメッセージがありましたらご記入ください。

- ・先生、スタッフの皆さんありがとうございました。ぜひまた企画してください!
- ・健康レベル向上のため、良いイベントに参加できました。平塚市でランニングやジョギング教室はないし、個人で走るのは続かないので今後も教室やサークルがあるとぜひ参加したいです。よろしくお願いします。ありがとうございました。
- ・またランニング&ウォーキングのお教室ありましたら参加したいと思います。高田先生の「体脂肪率7%」を目指します。ありがとうございました。
- ・大変良い企画でした。
- ・初めてなのでとてもつかれた。ありがとうございました。
- ・わかりやすくなるようになりました。また企画して下さい。
- ・今後もランニング教室、マラソン教室をぜひ開催してください。

- ・今後も RUN×LIBRARY のイベント企画をお願い致します。とても楽しく参加できました。走るきっかけを作って頂き有難うございます。
- ・とても良かったので、今後は土日開催してもっと多く（30名くらい）で行っても良いとおもいました。
- ・たのしかった。もっとはしることについて知りたいときょうみがわいたので参加してよかった。
- ・今回のみだけでなく、今後もマラソン教室を企画欲しいです。
- ・ランニングについて、わかり易く説明して下さり楽しく参加する事ができました。これから運動を続けること、意識を高く持ちたいと思いました。どうも有り難うございました。
- ・とても楽しかったので、同じ企画での第2弾3段の開催があればと思います。また、違う分野でも図書館の方の得意分野を生かした企画があればと思いました。どうもありがとうございました。
- ・わかりやすく話をして頂き、実ぎも良かったです。

4 反省点、今後の課題

(1) イベントの周知が市の広報紙、図書館ホームページ、図書館ツイッター及びポスター・チラシの配付だけであり、希望していたタウン紙への掲載ができなかったことから、市や図書館のイベント情報を確認している方が参加するという形となってしまった。今後は図書館利用者の裾野の拡大につながるよう、広く周知していきたい。

(2) 受付から講義に入るまでの間で、BGMを流すこと等で会場の雰囲気づくりするべきだった。

(3) 図書館×ランニングイベントの継続開催の要望が多数（参加者14名中9名）寄せられた。今回のイベントが高評価だったのは、講師によるものが大きかったと考えられる。継続開催には、予算の確保（市民向け講座としての開催）、講師の高田氏との調整が必要である。

以上

(3) 今期の図書館協議会の提案、検討事項のまとめ

【議事録抜粋、提案を受けての対応等】

1. 喫煙所の撤去

- ・駐車場から図書館へ向かう通りに設置されている喫煙所について、図書館に喫煙所は必要なのか。喫煙所を別の場所に移動するか、喫煙所自体が必要なのか検討していただきたい。(平成29年度第1回)

⇒平成29年8月、西棟の自動販売機横の喫煙所を撤去。

2. 新しいキャラクターの提案

- ・図書館には「ぶっくん」というキャラクターがあるが、著作権などの理由から同じポーズしか使用できないという制約がある。については、図書館設置70周年を迎える節目の年、新しいキャラクターを作ってはどうか。(平成29年度第2回)
- ・キャラクターに様々なポーズをつけ、LINEスタンプにして販売すれば図書館の増収策にもなるのではないか。(平成29年度第2回)

⇒平成30年2月キャラクター制作、平成30年8月LINEスタンプ販売。

3. 大学講師を招いた講座の要望

- ・東海大学で夏休み等に子ども向け、親子向けのイベントを実施していると思うが、図書館でも大学の先生を招いて何かイベントを行ったりすると良いと思う。(平成29年度第3回)
- ・博物館等では講師を呼んでプラネタリウムの上映をしたりしていると思うが、図書館では講師を招いた講座は実施されていないように思う。(平成29年度第3回)
- ・東海大学で夏休み等に子ども向け、親子向けのイベントを実施していると思うが、図書館でも大学の先生を招いて何かイベントを行ったりすると良いと思う。(平成29年度第3回)

⇒平成30年10月大学講師による講義と実技を合わせたランニングイベント開催。

4. (親子)参加型のイベントの要望

- ・小さい子は本を読んでもらうことだけで楽しいと思うが、小学校中高学年・中学生になると、読んだ本についてディベートをしたり、ロジカルシンキングを育てるような学びの場があれば参加者は増えていくと思う。本を読んでもらうためだけに参加しようとは中々思わないのではないか。(平成29年度第2回)
- ・最近、市内小学校の図書に関する情報交換の場で、家で読書をしない子が多く、どのような対策すれば良いか話題にでる。普段図書館に足を運ばない方も、親子で図書館へ行ってみようと思えるような催し物があれば家庭での親子読書の機会に繋がるのではないかと感じた。(平成29年度第3回)
- ・例えば理科実験、ロボットづくり、ぷちなでしこ(職業体験)、工作体験等参加型の講座は、また行ってみたい、やってみたいと子どもが思い、次に繋がるようだ。(平成29年度第3回)
- ・子どもにとって夏休みの宿題は大きな負担で、課題に関する参考文献を図書館で紹介したり、あまり知られていない面白い本を教えてくれたりする講座があれば有難いのではないか。(平成29年度第3回)

⇒子ども読書活動推進フォーラムについて、平成30年度に実施内容を見直し、中央公民館大ホールから中央図書館へ会場を移し、小学生、中高生、大人と対象を変えて参加型の企画を4回実施。

5. 他機関と連携

- ・他のイベントと連携して関連図書を紹介するなどしても面白いと思う。(平成29年度第3回)
- ・まちづくりや生活リスクマネジメントについての講座やイベントの際、関連図書がどこに所蔵されているかわかるようなリストがあれば、図書館の利用へつながると思う。ニーズがある所を狙うのが一番ではないか。(平成29年度第2回)
- ・各校のPTA組織と図書館が連携できないかも考えている。PTA活動が停滞している学校もあり、毎年講演会の講師を探すのに苦労している話もある。図書館として、図書を紹介してブックトークをしたり、講演会の講師を紹介したり、講演会のバックアップはできないだろうか。(平成30年度第1回)
- ・学校を通じて将来の図書館利用に繋げるためにどうすればよいかを考えた時、授業の中で図書館の資料を使用することは有効ではないかと思った。図書館として、学校で使用している教科書を研究し、教科書と並行して授業で使用できるような教材を提供できれば、図書館の利用にも繋がると考える。(平成30年度第1回)

※平成24年度から美術館・博物館との3館コラボ事業毎年夏ごろ実施

※平成31年度に市民提案型協働事業「図書館におけるボランティア体験を通じた不登校・ひきこもり改善・自立支援事業」を、特定非営利活動法人ぜんしんと協働して実施予定(場の活用)

6. 施設への要望(自習スペース、物品販売、カフェ等)

- ・今後老朽化対策等予算が限られた中で多面的な展開は難しいかもしれないが、カウンター横でしおりを販売できたり、お茶を飲みながら本を楽しめるスペースがあったりそういった展開ができないかと思う。(平成29年度第3回)
- ・図書館は静かにしなければいけないとすると、先ほどの資料にもあったが、子連れでは行きづらい場所である。静かにしてほしい方の気持ちもわかるが、図書館を居心地のよい場所ととらえると、多少は子どもが騒いでも自然体でいられるような空間となれば良いと思う。(平成30年度第2回)
- ・一人で静かに勉強するのではなく、例えば子どもに勉強を教えながらだったり友達同士話をしながら勉強できるスペースはないか。(平成30年度第1回)

※今後施設の改修・建替の際の参考とさせていただきます。

7. 1階壁面飾りつけ

- ・学校では、読み聞かせだけでなく、ボランティアさんに図書室内の壁面の飾りつけをしていただいております。子どもたちもとても喜んでおります。図書館でもボランティアさんによる壁面などの飾りつけは実施しているのか。(平成29年度第2回)
- ・実施していただけるボランティアさんは多くいらっしゃるようなので、可能性があれば検討の課題にいれていただきたい。(平成29年度第2回)

⇒平成30年8月から11月、平塚市図書館設置70周年記念事業の一環として、来館者に、おすすめの児童書を所定の用紙に記入していただき、1階ホールに飾りました。

8. 子どもへのおまけ

- ・中央図書館こども室のカウンターに時々チラシで作った「蛙」が置いてあり自由に持ち帰ることができるが、そういった物は子どもたちもとても嬉しいようだ。自由に持ち帰ることができる折り紙でつくったちょっとした物が置いてあり、その作り方が紹介された本の情報を提供していた

だけるとさらに良いのではないかと思った。(平成29年度第3回)

※こども室カウンターで、出典等紹介している。

9. 駐車場無料時間の延長

- ・駐車場の件だが、現在1時間のみ無料であるが、例外や今後運用が変更になる可能性はないか。実際、調べ物をしたり勉強しているとあっという間に1時間が過ぎてしまうと思う。(平成30年度第1回)

10. 図書委員のサミットの開催

- ・生徒会児童会のサミットのようなものが行われていたことが過去にあると思うが、図書委員のサミットのようなものがあれば良いとも考える。図書館の自主事業として、市内の図書委員を集め、午前中各校図書室の紹介、午後一日図書館員等のイベントを企画すれば、図書館を身近に感じることが増やせるのではないか。(平成30年度第1回)

11. 図書館まで利用者を運ぶサービス

- ・移動図書館でカバーする地域もあれば返却ポストを充実させる地域もあるように、これからの時代、地域の特性によって提供するサービスの種類が変わっていくと考える。神田地区は市民病院へシャトルバスが運行していると思うが、移動図書館で地域に出向くだけでなく、人を乗せて図書館まで連れていくサービスを今後提供するのはいかがでしょうかとも考える。(平成30年度第2回)

12. 朗読や音源の提供サービス

図書館で朗読するサービスや朗読の音源を提供するサービスはあるか。読書週間等の際、図書館から朗読の音源を提供していただき、お昼の放送でアナウンスしたり、運動会の際に「ぶくまる」が応援合戦に加わったり、学校現場を使ってなにかできないか考えている。(平成30年度第2回)